

だと確信し、その評論で「せめて主演女優賞だけはケイト・ブランシェットに獲らせたかった。そんな思いは私だけ・・・？」と書いた。

しかして、今頃になってやっと日本公開された本作も、レスリー役の主演女優アンドレア・ライズボローが、第95回アカデミー賞の主演女優賞にノミネートされていたらしい。しかし、アンドレア・ライズボローって一体どんな女優？どんな映画に出ているの？聞くとところによると、『To Leslie トゥ・レスリー』と題された本作の主人公レスリーは“アル中”のダメ女らしいが・・・。

■□■賞選びあれこれ！なぜ本作の主演女優がオスカー候補？■□■

第95回アカデミー主演女優賞にアンドレア・ライズボローがノミネートされた本作については新聞紙評も多い。渡辺祥子氏（映画評論家）のそれは、その経緯について次の通り詳しく書いている。すなわち、「レスリー役で多くの女優たちの共感を得た結果、アンドレア・ライズボローは、今年第95回アカデミー賞主演女優賞候補になった。テレビ出身マイケル・モリスの長編映画監督デビュー作。米国では単館系の小規模な公開、興行成績も不調だったが、作品を見たグウィネス・パルトロー、ジェーン・フォンダ、ケイト・ブランシェットらハリウッドの実力派女優が体当たり演技を絶賛。そこにはSNS（交流サイト）時代、好評はすぐに拡散し、単館系小品からまさかの主演女優賞候補が誕生した。」ちなみに、そこではグウィネス・パルトロー、ジェーン・フォンダと並んでケイト・ブランシェットの名前が書かれているが、パンフレットにある「アカデミー賞主演女優賞ノミネートに至るまで」を読めば、きっとケイト・ウィンスレットの間違い。ケイト・ブランシェットは全米批評家協会賞を受賞した際に「恣意的な演技賞で最も見過ごされている演技のひとつ」とスピーチしているだけ、というのが真相だ。

また、本作についてはネット上のネタバレ情報がたくさんある。その中の1つ、シネマンドレイクの『To Leslie トゥ・レスリー』感想には、「セレブがノミネートを左右する？」と題して、アンドレア・ライズボローが主演女優賞にノミネートされた経緯を詳しく解説している。私はそれに同感だ。

そもそも“賞選び”にはいろいろなやり方がある。世界最高権威のノーベル賞だって、なぜ文学賞に村上春樹が選ばれないのかが不思議がられている。身近なところでは、長い間続いているNHK「のど自慢」の審査は、かなりいい加減。私が修習生時代によく見ていた「スター誕生」だって、当時13歳の森昌子が初代グランドチャンピオンになった頃から人気が高まったが、審査の基準は全然明確ではなかった。その点、堺正章が司会を務める、私の大好きな「THE カラオケ★バトル」は審査員がカラオケ採点機だから公明正大。他のどんな歌番組より、これは信用できる。野球界で考えても、大リーグで大活躍中の大谷翔平がオールスター戦にファン投票1位で選出されたのは当然だが、阪神タイガーズの10選手がトップ選出というのはどう見てもへん！人気と実力が一致しているとは到底思えない。アカデミー賞は映画界最大の賞であることは認めつつ、“賞選びあれこれ”とは、

しよせんその程度のもので考えることが必要だ。

■□■テーマは、宝くじの賞金はアルコールに消えた！だが■□■

アカデミー主演女優賞にノミネートされた女優アンドレア・ライズボローは1981年生まれだから、40歳を少し超えたところの、いわゆる「熟女」(?)。本作の冒頭は、テキサス州西部に住むシングルマザーのレスリー(アンドレア・ライズボロー)が地元の宝くじで19万ドル(約2500万円)に当選したことではしゃぎ回り、取材に応えている風景が登場する。彼女の発言は強気、そして、今夜の飲み代は「全部私のおごり！」と気前いいが、家を買ひ、〇〇を買ひ、△△を買えば、19万ドルなんてすぐに消えてしまうのでは?そう思っていると、案の定、数秒後には「それから6年後」のレスリーが1人シケた面で安物のモーテルの中で座り込んでいる姿が登場する。現在のレスリーは無一文で宿代も払えず、周囲の人に無心してもダメ。結局、大声で悪態をつきながらスーツケース1つで部屋から追い出されてしまう体たらくだ。

その後、1人でバーに入ったレスリーは、ヤケ酒を飲みながらカウンターに座る男に色目を向けたが、その成果は?高額の宝くじに当選した当時のレスリーは、シングルマザーながら魅力的だったから、息子のジェームズ(オーウェン・ティグ)が19歳になった6年後の今でも見方によってはそれなりに魅力的。しかし、あの悪態のつき方、あの酒の飲み方、あの色目の使い方を見ると、大概の男は身を引いていくだろう。スーツケースを抱え、雨が降る中、建物の陰で雨宿りをするしかなくなったレスリーの最後の頼みの綱は、今は疎遠になっているジェームズだが、そんなことが今更できるの?彼女が電話をかけた相手はホントにジェームズなの?そう思っていると、ジェームズが車で迎えに来てくれたから、ひとまず彼の車でジェームズの家の中へ。レスリーは「アルコールはやめた」としおらしく息子に謝っているし、「明日から仕事をする」と前向きの言葉を連ねていたが、それって本当?

本作のテーマは、冒頭の短いシークエンスで示される通り、「宝くじの賞金はアルコールに消えた」だが、それだけでホントに1本の映画になるの?

■□■ダメ女はやっぱりダメ?捨てる神あれば拾う神あり?■□■

女優としての演技力を見せつけるためには“フツの女”役より、“キャラの強い女”役の方が有利。そんな視点で言うと、本作のレスリーのような“ダメ女”役は主演女優賞を狙うには絶好のキャラだ。

せっかく息子の最後の好意で同居させてもらったのに、隠れて酒を飲むだけでなく、息子の親友の財布から小金を盗んで酒代に使っているレスリーの姿を見ると唾然!更に、息子から追い出されたレスリーは、かつて仲の良かった地元の友人ナンシー(アリソン・ジャネイ)とダッチ(スティヴン・ルート)を頼ったが、この2人はレスリーの身柄を受け入れてくれたものの、酒に溺れ、幼いジェームズを置いて家を出ていったレスリーを許していなかったから厳しい態度を示し、そのため3者の関係は常に緊張状態になった。そ

んな中でもレスリーはバー通いをやめなかったから、ここでも結局彼らの家から閉め出されてしまうことに。

「男はつらいよ」シリーズでは、フーテンの寅さんが毎回吐く定番のセリフがあり、それが心地良かったが、本作で何度も見るレスリーの悪態とわめき声にはいい加減うんざり。宝くじに当たったばかりに酒に溺れ、周りのみんなから見放されてしまった、中年のアル中女・レスリーの人生は、これにてジ・エンド。ダメ女はやっぱりダメ！50年近く弁護士業を続け、多くの人の人生を観察し続けてきた私はそう思ったが、それでもなお、捨てる神あれば、拾う神あり？

■□■この男をどう評価？私には納得できないが・・・？■□■

万策(?) 尽き果てて、今や野垂れ死にするしかなくなったレスリーを、なぜかモータルの従業員として雇う、という判断をするのが、本作後半から登場してくるモーター管理人のスウィーニー(マーク・マロン)。彼はこのモーターの経営者ではなく、管理権を任されているだけだということが彼の口から語られるが、そこらの“経営委託”の実態は弁護士の私には極めて曖昧だ。それはともかく、本作後半のポイントは、そんなスウィーニーがモーターの部屋の外でへたり込んでいるレスリーを、なぜか時給を決めて雇ってやること。

スウィーニーには時々奇声を挙げて裸で走り回るといふ奇妙な友人・ロイヤル(アンドレ・ロヨ)がいるだけで、街の住人とは大きな距離を置いているようだし、レスリーを雇うまでは他に従業員がいなかったから、如何にしてこのモーターの経営を成り立たせていたのかも疑問だ。それも横において、以後のストーリー展開を見ていると、レスリーが時には真面目に働くものの、やっぱり本性を現してしまうという状況の繰り返しの中、スウィーニーとレスリーの間に少しずつ“男と女の感情”が生まれてくることに注目！こんな“ダメ女”の一体どこがいいのか私には全然わからないが、ロイヤル以外に付き合いがない孤独な男スウィーニーには、レスリーの孤独な気持ちが理解でき、共有できるらしい。日本で最近大流行りの、いわゆる“寄り添う”ことができる男と女のパートナーというわけだ。もちろんスウィーニーだって男だから、それなりの性的欲求は持っているから、スクリーン上にはそれらしきシーンも登場するが、本作のスウィーニーとレスリーに見る中年の男女関係のあり方は、私には理解不能で納得できないものだ。

したがって、本作後半のストーリー展開は私にはイマイチだが、レスリー役を演ずるアンドレア・ライズボローの演技力発揮にはそれなりによくできたストーリー展開なのだろう。さあ、レスリーは酒を絶ち、日々のモーターの仕事をこなしつつ、スウィーニーやロイヤルとのいい人間関係と形成することができるのだろうか？

■□■このハッピーエンドは如何なもの？■□■

映画のエンディングは難しい。問題提起だけで終わるものもあれば、悲劇的な結末を受け入れざるを得ないものもある。しかし、ハッピーエンドで終わる映画が圧倒的に多いこ

とを考えれば、やはり観客は映画に希望を見出し、明日への活力を養ってくれることを求めるのだろう。しかし、レスリーのような“アル中のダメ女”を主人公にした本作は、どちらかというと悲劇的な結末の方が落ち着きどころが良いのでは・・・？

そんな私の思惑とは裏腹に、本作ではレスリーがある日モーテルの敷地内に放置されていたアイスクリーム店に目をつけ、自分の将来の夢は「ダイナーを経営することだった」と思い出すところから、一気にハッピーエンドの方向に向かっていく。アイスクリームの店と言っても、それは廃墟同然の建物だから、私に言わせればそれを補修するよりプレハブを建てた方がよほど安上がり。しかし、それではアンドレア・ライズボローが主演女優賞並みの演技力を見せつけることができないため、本作ラストに向けては「レスリーの店」を開店するためにスウィーニーとレスリーが奮闘する姿が描かれる。

そして、今日はついに“開店の日”だが、モーテルの経営実態は一体どうなっているの？建物補修費以外の、什器備品一式や材料費等の開店資金は一体どこから捻出したの？そして、何よりも町の中で孤立していたあのモーテルにある敷地内にある「レスリーの店」に客がやってくるの？そう思っていると、案の定、来客はゼロ。そして閉店間際にやってきたのがナンシーだ。これは嫌味を言うため？それとも・・・？そこからスクリーン上に見る感動のハッピーエンドは、悪くはないが、さて如何なもの・・・？

2023（令和5）年7月6日記